

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、強く、きよらかに、生き抜く力を培う学校

- 1 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校
- 2 教職員の役割と責任を明確にして学校組織の再構築を行い、専門性向上体制を整える学校
- 3 「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校
- 4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校

2 中期的目標

- 1 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校
 - (1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、子どもファーストの徹底体制づくりに取り組む。
 - ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCA サイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。
 - イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。
 - ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。
 - エ 「教育環境」(ICT 関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロモーター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。
 - オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。
- 2 教職員の役割と責任を明確にして学校組織の再構築を行い、専門性向上体制を整える学校
 - (1) 個人主義ではなく、学校として丸となったチーム学校の意識化を深め、専門性向上に取り組む。
 - ア 学校運営にかかわる会議をスリム化する。ICT を活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。
 - イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に取り組む。
 - ウ 新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。
 - エ 全教員が学び続ける教員として「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。
 - オ 外部講師を招き、50 周年(H31/9/28)とも関連させ、効率的な研修を組織的・計画的に継続する。
- 3 「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校
 - (1) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(メンター・メンティの関係づくりの強化)に取り組む。
 - ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。
 - イ 茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続や、管理職通信とブログによる共有化の継続に取り組む。
 - ウ P T A や関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時も含む)の継続的な見直しとライフライン断絶(下校困難)時の研修、訓練に取り組む。
- 4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校
 - (1) 関係部署による校内体制の連携を図りセンター的機能の充実を行い、地域や各校種の学校に対し積極的な支援と連携を行う。
 - ア 最新で適切な情報源としての HP・ブログの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。
 - イ 50 周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。
 - ウ 「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

府立茨木支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 性と態度を養う学校 性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲	<p>(1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、子どもファーストの徹底体制づくりに取り組む。</p> <p>ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCAサイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。</p> <p>イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。</p> <p>ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。</p> <p>エ 「教育環境」(ICT関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロコモーター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。</p> <p>オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。</p>	<p>(1) 特に研究部・健康安全部・教務部・自立活動支援部・進路指導部・児童生徒部・通学部・行事部や、アレルギー/医療/給食委員会等が中心に各項目の実践を行う。</p> <p>ア実践に応用できる授業研究をめざし、研究授業を継続する。又重度障がいのある生徒への対応や、姿勢・運動・摂食・コミュニケーション等の専門性を向上させるため、全校年間研究テーマの設定に取り組む。外部研修への参加等を通し自己研鑽する。学校全体の行事について、新学習指導要領を見据え、検討を深める。</p> <p>イよりきめ細かい指導に活用できるよう、個別の指導計画、個別の教育支援計画の見直しを通知表と連動し、「指導と評価の一体化」をめざす。</p> <p>ウ外部専門研究機関等と連携しながら楽スタ、タブレット型PCの更なる活用に取り組む。ポッチャをはじめ、新スポーツ等の取組みを充実、更に外国語(国際理解)・言語(読書)の活動の充実、又、自作教材(ロコモーター(電動移動支援教具))の充実を図る。</p> <p>エ不用意・不注意な事故を防止するための意識向上のための行動計画オ校外での見学・実習回数を増やし、社会性、就労意識の向上を図る。清掃・喫茶サービス等の技能や意欲の向上を図る。外部講師を招き「社会に出たときのマナーや心構えについて」の講義を実施する。</p>	<p>ア授業改善の学校教育自己診断による評価肯定率 80%以上 (H29 72.9%)</p> <p>イ個別の教育支援計画の様式や記入文章の改善肯定率 70%以上 (H29 66.2%)</p> <p>ウ新たな取組み(教育環境充実)の成果について学校診断評価肯定率 70%以上 (H29 66.9%)</p> <p>エ不注意な事故の発生ゼロをめざす。スキルアップのための新たな取組みの継続と学校教育自己診断による肯定率維持 90% (H29 89.4%)</p> <p>オ就労希望生徒の就労 100%継続</p>	
2 教職員の役割と専門性向上体制を整える学校	<p>(1) 個人主義ではなく、学校として丸となったチーム学校の意識化を深め、専門性向上に取り組む。</p> <p>ア 学校運営にかかわる会議をスリム化する。ICTを活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。</p> <p>イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に取り組む。</p> <p>ウ 新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。</p> <p>エ 全教員が学び続ける教員として「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。</p> <p>オ 外部講師を招き、50周年(H31/9/28)とも関連させ、効率的な研修を組織的・計画的に継続する。</p>	<p>(1) 特に進路指導部・研究部・行事部をはじめ、各種委員会等が学校の総力を挙げて、各項目の実践を行う。</p> <p>ア会議の効率化/ICT(情報モル・リテラシーを含む)を活用した校務の円滑化の試行実施、会議の持ち方の共通ルールの実践に取り組む。</p> <p>イ業務の見える化をさらに進めマニュアルの作成や様式の改善、電子データの活用に取り組む。</p> <p>ウ引継ぎ資料の工夫により指導支援の根拠や理由、きめ細かな配慮事項を各自に伝達できるようにして全体の専門性向上を図る。</p> <p>エワークショップ形式など教員が主体的に参加し学ぶ喜びを実感できるような研修を工夫する。</p> <p>オ全教員が主体的、対話的に深く学びあえる研究授業または事例研究を実施する。教育実践を文書化し発表する機会を設定する。</p>	<p>ア校務の円滑化を進めることで、子どもと向き合う時間の確保 肯定比率 75%以上 (H29 70.3%)</p> <p>イわかりやすい業務分担表やマニュアル整備肯定比率 45% (H29 43.4%)</p> <p>ウ校内研修の充実の肯定比率 65%以上 (H29 59.5%)</p> <p>エ研究授業・協議数 30%増 (H29 全校研修3回)</p> <p>オ外部講師による研修会を 3回以上実施</p>	
3 例年通りから脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校	<p>(1) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(メンター・メンティの関係づくりの強化)に取り組む。</p> <p>ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。</p> <p>イ 茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続や、管理職通信とブログによる共有化の継続に取り組む。</p> <p>ウ PTAや関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時も含む)の継続的な見直しとライフライン断絶(下校困難)時の研修、訓練に取り組む。</p>	<p>(1) 特に事務・教頭・首席・指導教諭や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。</p> <p>アサービス管理:通勤/研修/勤務の適正化 年に最低1回以上の抜き打ちチェックの継続実施</p> <p>イ人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用 ・茨木初任自主研修(9/25・12/18 予定)及び毎週定期的な学習会の円滑実施・管理職通信とブログによる共有化促進 ・長時間勤務の縮減と会計事務の適正化</p> <p>ウ地域・PTAとも連携して震度7以上の大規模災害を想定し、減災に向け備えを充実する。備蓄品の点検と使用体験等を行い、防災意識の向上の取組みを進める。通学バスの避難マニュアル、マップを作成する。</p>	<p>アサービス管理:通勤/研修/勤務の適正化 (5・7月2回)実施</p> <p>イ人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用 ・自主合同研(9/25・12/18)等、学習会・通信(ブログ)実践 ・有給消化10%増・会計契約の保存体制</p> <p>ウ防災意識について学校教育自己診断による肯定率 80%以上 (H29 71.7%)</p>	
4 共生社会の形成に向け、地域から信頼される学校	<p>(1) 関係部署による校内体制の連携を図りセンター的機能の充実を行い、地域や各校種の学校に対し積極的な支援と連携を行う。</p> <p>ア 最新で適切な情報源としてのHP・ブログの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。</p> <p>イ 50周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。</p> <p>ウ 高度医療の国(委託)事業を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。</p>	<p>(1) 特に情報部・総務部や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。</p> <p>アホームページデザインの一斉更新。学校紹介パンフレット(カラー版)とともに、地域に根差した先進的取組みを積極的・継続的に発信する。</p> <p>イ創立50周年(H31/9/28)の具体化と広報に取り組む。</p> <p>ウ学び続ける教員に必要な研修を継続し、ポートフォリオの導入、効果測定などを導入して効果的で効率的な研修に改善し、高度医療の校内体制の整備と充実を努める。</p>	<p>アHPブログの更新件数 10%増 新パンフの完成 (更新数H29約200回)</p> <p>イ50周年の具体化 外部コンクールや検定等への参加件数 10件以上</p> <p>ウ高度医療探究体制づくりの充実 国事業での発表</p>	

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、強く、きよらかに、生き抜く力を培う学校

- 1 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校
- 2 教職員の役割と責任を明確にして学校組織の再構築を行い、専門性向上体制を整える学校
- 3 「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校
- 4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校

2 中期的目標

- 1 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校
 - (1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、子どもファーストの徹底体制づくりに取り組む。
 - ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCA サイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。
 - イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。
 - ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。
 - エ 「教育環境」(ICT 関連含:タブレット端末、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロモター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。
 - オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。
- 2 教職員の役割と責任を明確にして学校組織の再構築を行い、専門性向上体制を整える学校
 - (1) 個人主義ではなく、学校として丸となったチーム学校の意識化を深め、専門性向上に取り組む。
 - ア 学校運営にかかわる会議をスリム化する。ICT を活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。
 - イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に取り組む。
 - ウ 新しく支援教育に携わる教員等へのサポート体制の充実とともに全体の専門性向上をめざす。
 - エ 全教員が学び続ける教員として「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。
 - オ 外部講師を招き、50 周年(H31/9/28)とも関連させ、効率的な研修を組織的・計画的に継続する。
- 3 「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校
 - (2) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(メンター・メンティの関係づくりの強化)に取り組む。
 - ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。
 - イ 茨木の初任者等自主研修の継続や管理職通信とブログによる共有化の継続に取り組む。
 - ウ P T A や関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時も含む)の継続的な見直しとライフライン断絶(下校困難)時の研修、訓練に取り組む。
- 4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校
 - (1) 関係部署による校内体制の連携を図りセンター的機能の充実を行い、地域や各校種の学校に対し積極的な支援と連携を行う。
 - ア 最新で適切な情報源としての HP・ブログの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。
 - イ 50 周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。
 - ウ 「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

府立茨木支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 性と態度を養う学校 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲	<p>(1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、子どもファーストの徹底体制づくりに取り組む。</p> <p>ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCA サイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。</p> <p>イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。</p> <p>ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。「教育環境」(ICT 関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロモーター(電動移動支援教具)等)の充実。</p> <p>エ ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。</p> <p>オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。</p>	<p>(1) 特に研究部・健康安全部・教務部・自立活動支援部・進路指導部・児童生徒部・通学部・行事部や、アレルギー/医ケア/給食委員会等が中心に各項目の実践を行う。</p> <p>ア実践に応用できる授業研究をめざし、研究授業を継続する。又重度障がいのある生徒への対応や、姿勢・運動・摂食・コミュニケーション等の専門性を向上させるため、全校年間研究テーマの設定に取り組む。外部研修への参加等を通し自己研鑽する。学校全体の行事について、新学習指導要領を見据え、検討を深める。</p> <p>イよりきめ細かい指導に活用できるよう、個別の指導計画、個別の教育支援計画の見直しを通知表と連動し、「指導と評価の一体化」をめざす。</p> <p>ウ外部専門研究機関等と連携しながら楽スタ、タブレット型 PC 等の更なる活用に取組む。ポッチャをはじめ、新スポーツ等の取組みを充実、更に外国語(国際理解)・言語(読書)の活動の充実を図る。</p> <p>エ不用意・不注意な事故を防止するための意識向上のための行動計画の推進。</p> <p>オ校外での見学・実習回数を増やし、社会性、就労意識の向上を図る。清掃・喫茶サービス等の技能や意欲の向上を図る。外部講師を招いての講義を実施する。各種スポーツ大会への取組の充実。</p>	<p>ア授業改善の学校教育自己診断による評価肯定比率 80%以上 (H29 72.9%)</p> <p>イ個別の教育支援計画の様式や記入文章の改善 学校教育自己診断による評価肯定比率 70%以上 (H29 66.2%)</p> <p>ウ新たな取組み(教育環境充実)の成果について 学校教育自己診断による評価肯定比率 70%以上 (H29 66.9%)</p> <p>エ不注意な事故の発生ゼロをめざす。学校教育自己診断による評価肯定比率維持 90% (H29 89.4%)</p> <p>オ就労希望生徒の就労 100%</p>	
2 教職員の役割と責任を明確にして学校組織の再構築を行い、専門性向上体制を整える学校	<p>(1) 個人主義ではなく、学校として一丸となったチーム学校の意識化を深め、専門性向上に取り組む。</p> <p>ア 学校運営にかかわる会議をスリム化する。ICTを活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。</p> <p>イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に取り組む。</p> <p>ウ 新しく支援教育に携わる教員等へのサポート体制の充実とともに専門性の向上をめざす。</p> <p>エ 全教員が学び続ける教員として「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。</p> <p>オ 外部講師を招き、50周年 (H31/9/28)とも関連させ、効率的な研修を組織的・計画的に継続する。</p>	<p>(1) 特に進路指導部・研究部・行事部をはじめ、各種委員会等が学校の総力を挙げて、各項目の実践を行う。</p> <p>ア会議の効率化や ICT(情報モラル・リテラシーを含む)を活用した校務の円滑化の試行実施、会議の持ち方の共通ルールの実施に取り組む。</p> <p>イ業務の見える化をさらに進めマニュアルの作成や様式の改善、電子データの活用に取組む。</p> <p>ウ引継ぎ資料の工夫により指導支援の根拠や理由、きめ細かな配慮事項を各自に伝達できるようにして全体の専門性向上を図る。</p> <p>エ対話的に深く学びあえる研究授業または事例研究を実施する。ワークショップ形式など教員が主体的に参加し学ぶ喜びを実感できるような研修を工夫する。</p> <p>オ教育実践を文書化し発表する機会を設定する</p>	<p>ア校務の円滑化を進めることで、子どもと向き合う時間の確保 学校教育自己診断による評価肯定比率 75%以上 (H29 70.3%)</p> <p>イわかりやすい業務分担表やマニュアル整備 学校教育自己診断による評価肯定比率 45%以上 (H29 43.4%)</p> <p>ウ専門性の向上 学校教育自己診断による評価肯定比率 80%以上 (H29 78.6%)</p> <p>エ校内研修の充実 学校教育自己診断による評価肯定比率 65%以上 (H29 59.5%)</p> <p>研究授業数 10%増</p> <p>オ校内研修数 10%増</p> <p>外部講師による研修会を 3 回以上実施</p>	
3 組織をめぐり、例年通りから脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校	<p>(1) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(メンター・メンティの関係づくりの強化)に取り組む。</p> <p>ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。</p> <p>イ 茨木の初任者等自主研修の継続やブログによる共有化の継続に取り組む。</p> <p>ウ P T A や関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時も含む)の継続的な見直しとライフライン断絶(下校困難)時の研修、訓練に取り組む。</p>	<p>(1) 特に事務・教頭・首席・指導教諭や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。</p> <p>ア人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用する。サービス管理:通勤/研修/勤務の適正化を図る。 年に最低 1 回以上の抜き打ちチェックの継続実施 長時間勤務の縮減</p> <p>イ茨木初任自主研修(7/5・12/18 予定)の継続・管理職通信とブログによる共有化の促進。</p> <p>ウ地域・P T A と連携して震度 7 以上の大規模災害を想定し、減災に向け備えを充実する。備蓄品の点検と使用体験等を行い、防災意識の向上の取組みを進める。通学バスの避難マニュアル、マップを作成する。</p>	<p>ア首席/指導教諭の適材適所活用する サービス管理:通勤/研修/勤務の適正化 (5・7月 2 回)実施 長時間勤務の縮減 有給消化 10%増</p> <p>イ自主合同研(7/5・12/18 予定)通信(ブログ)実践</p> <p>ウ防災意識について 学校教育自己診断による評価肯定比率 80%以上 (H29 71.7%)</p>	
4 地域から共生社会の形成に向け、信頼され期待される学校	<p>(1) 関係部署による校内体制の連携を図りセンター的機能の充実を行い、地域や各校種の学校に対し積極的な支援と連携を行う。</p> <p>ア 最新で適切な情報源としての HP・ブログの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的に継続的に行う。</p> <p>イ 50周年 (H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。</p> <p>ウ 「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。</p>	<p>(1) 特に情報部・総務部や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。</p> <p>アホームページデザインの一斉更新。学校紹介パンフレット(カラー版)とともに、地域に根差した先進的取組みを積極的に発信する。</p> <p>イ創立 50周年 (H31/9/28)の具体化と広報に取り組む。</p> <p>ウ学び続ける教員に必要な研修を継続し、ポートフォリオの導入、効果測定などを導入して効果的で効率的な研修に改善し、高度医療を含めた医療的ケアの校内体制の整備と充実を努める。</p>	<p>ア HP リニューアル(更新率 100%)新パンフレット等の完成。</p> <p>イ 50周年の具体化。外部コンクールや検定等への参加件数 10 件以上</p> <p>ウ高度な医療的ケアを含めた医療的ケア実施校内体制の確立 マニュアルづくり等・国事業での発表</p>	